

実数

Jacques Garrigue, 2019 年 4 月 16 日

有理数 自然に構築できる様々な数の集合

自然数 $\mathbf{N} = \{0, 1, 2, 3, \dots\}$

整数 $\mathbf{Z} = \{0, 1, -1, 2, -2, \dots\}$

有理数 $\mathbf{Q} = \left\{ \frac{m}{n} \mid m, n \in \mathbf{Z}, n \neq 0 \right\} = \left\{ 0, 1, -1, 2, -2, \frac{1}{2}, -\frac{1}{2}, 3, -3, \frac{3}{2}, -\frac{3}{2}, \frac{1}{3}, \dots \right\}$

このように構築された数は全部リストに並べられる。

数直線 直線上に数を並べたものを数直線という。数直線上の全ての点を実数 (\mathbf{R} の要素) という。有理数でないものも含まれる。 ($\sqrt{2}, \pi$ など)

順序 数直線上の全ての数が比較できる。

$$a, b \in \mathbf{R} \text{ ならば } a < b \text{ または } a = b \text{ または } a > b$$

論理記号と使うと

$$\forall a, b \in \mathbf{R}, a < b \vee a = b \vee a > b$$

$$\begin{aligned} \text{なお } a > b &\Leftrightarrow b < a & a < b < c &\Leftrightarrow a < b \wedge b < c \\ a \leq b &\Leftrightarrow (a = b \vee a < b) & a \geq b &\Leftrightarrow b \leq a \end{aligned}$$

区間 $(a, b) = \{x \mid a < x < b\}$ 开区間

$$[a, b) = \{x \mid a \leq x < b\}$$

$$(a, b] = \{x \mid a < x \leq b\}$$

$$[a, b] = \{x \mid a \leq x \leq b\} \text{ 閉区間}$$

ここで $a, b \in \mathbf{R}$ または $(-\infty$ および $\infty)$ 。

有界集合 $A \subset \mathbf{R}$ について

$$A \text{ が上に有界} \Leftrightarrow \exists M \in \mathbf{R}, \forall x \in A, x \leq M \quad (M \text{ が上界})$$

$$A \text{ が下に有界} \Leftrightarrow \exists m \in \mathbf{R}, \forall x \in A, m \leq x \quad (m \text{ が下界})$$

$$A \text{ が有界} \Leftrightarrow A \text{ が上に有界} \wedge A \text{ が下に有界}$$

A が閉空間に含まれれば, A が有界

$$(\exists m, M \in \mathbf{R}, A \subset [m, M]) \Rightarrow A \text{ が有界}$$

数列 自然数に数を対応させたものを数列といい, $\{a_n\}_{n=1}^{\infty}$ と書く。 $\{a_n \mid 1 \leq n\} \subset \mathbf{Q}$ なら有理数列, $\{a_n \mid 1 \leq n\}$ が有界なら有界数列という。

例 $\{n\}_{n=1}^{\infty}$ は有界数列ではない。

$$\left\{ 1 + (-1)^{n+1} \frac{1}{n} \right\}_{n=1}^{\infty} \text{ は有界な有理数列。}$$

数列の極限 数列 $\{a_n\}$ が α (実数または $\infty, -\infty$) であるとは, n が大きくなったときにその極限に限りなく近付くことをいい $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = \alpha$ と書く.

有限な極限 α の場合, $\{a_n\}$ が収束するといふ. それ以外の場合は発散するといふ.

$$\alpha \in \mathbf{R} \text{ のとき } \lim_{n \rightarrow \infty} a_n = \alpha \Leftrightarrow \lim_{n \rightarrow \infty} |a_n - \alpha| = 0$$

単調数列 数列 $\{a_n\}_{n=1}^{\infty}$ が単調増加とは, $\forall n \geq 1, a_n \leq a_{n+1}$. 単調減少とは, $\forall n \geq 1, a_n \geq a_{n+1}$. どちらかであれば, 単調数列といふ.

例 $\{\frac{1}{n}\}_{n=1}^{\infty}$ は単調減少数列.

実数の連続性 数直線上の全ての点の実数に対応していると定義したので, 数直線上の点列が一点に収束するなら, それに対する実数が存在する.

特に, $\sqrt{2}$ に収束する有理数列が定義できるが, $\sqrt{2}$ は有理点ではないので, その収束を \mathbf{Q} 上で定義できない.

具体的に全ての実数を以下の公理から定義する.

公理 1 (実数の連続性) \mathbf{R} の有界な単調数列は \mathbf{R} 上に収束する.

無限少数 任意の実数 a を 10 進数の無限少数展開として書ける.

$$a = m.n_1n_2n_3\dots \quad (m \in \mathbf{Z}, n_i \in \{0\dots 9\}) \quad a_k = m \pm \sum_{i=1}^k n_i 10^{-i} \quad (m < 0 \text{ のとき } -)$$

$\{a_k\}_{k=0}^{\infty}$ が有界かつ単調なので, $\lim_{k \rightarrow \infty} a_k = a$.

極限の演算

定理 1.1.1 (数列の極限) $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = \alpha, \lim_{n \rightarrow \infty} b_n = \beta$ ($\alpha, \beta \in \mathbf{R}$) とする. そのとき

$$\begin{aligned} (1) \quad \lim_{n \rightarrow \infty} (a_n + b_n) &= \alpha + \beta & (2) \quad \lim_{n \rightarrow \infty} ca_n &= c\alpha \quad (c \in \mathbf{R}) \\ (3) \quad \lim_{n \rightarrow \infty} a_nb_n &= \alpha\beta & (4) \quad \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{a_n}{b_n} &= \frac{\alpha}{\beta} \quad (\beta \neq 0) \end{aligned}$$

最大元, 最小元 $A \subset \mathbf{R}$ について, $M \in A \wedge \forall x \in A, x \leq M$ ならば, $M = \max(A)$ が A の最大元である. 同様に $m \in A \wedge \forall x \in A, m \leq x$ ならば, $m = \min(A)$ が A の最小元である. A が有界でも, 最大限と最小限が存在するとは限らない.

有界な関数, 最大値, 最小値 $f(x)$ が集合 A で定義された関数とする. f の像 $f(A) = \{f(x) \mid x \in A\}$ が有界また最小元や最大元をもつならば, $f(x)$ は有界な関数, 最大値をもつ, 最小値をもつといふ.

$$\max\{f\} = \max_{x \in A} f(x) = \max(f(A)) \quad \min\{f\} = \min_{x \in A} f(x) = \min(f(A))$$

上限, 下限 $A \subset \mathbf{R}$ が空ではなく, 上に有界であれば, A の上階の最小元を A の上限といふ, $\sup A$ と書く. この最小元が必ず存在する. 同様に, A が下に有界であれば, 下限 $\inf A$ が存在する.

また, 集合 A で定義された関数 $f(x)$ についても同様の定義がなされる.

$$\sup f = \sup_{x \in A} f(x) = \sup f(A) \quad \inf f = \inf_{x \in A} f(x) = \inf f(A)$$